

てしまうところもたくさんありました。

昭和19年（1944年）になると、戦争のため疎開してきた人々も、この地に集まってきました。そこで、次の年には、開こんずる土地をふやしたい人も出てきたので、20人で開たく組合がつくられました。



86-1 荻ノ目開拓記念碑<sup>ひ</sup>

### ——ととのっていく乙空釜——

入植者の子ども達は、7キロメートル以上の山道を蓬田小学校や、四辻分校へ通っていました。朝夕と一時間半もかけて歩くことは、小さな子にとっては、たいへんなことでした。

昭和22年（1945年）になって、遠藤ミナさんの家<sup>きせつぶん</sup>をかりて「乙空釜季節分<sup>きせつぶん</sup>教場<sup>きょうじょう</sup>」が開かれることになりました。これは、冬の期間だけ開かれるものでしたが、深い雪道を通学しなければならなかったことを考えると、たいへんうれしいできごとでした。1年から3年までの子ども達18人が、一つの学級で勉強しました。

次の年には、一年間通える「乙空釜常設分校<sup>じょうせつぶん</sup>」となり、地いきの人々は、たいへんよろこびました。昭和25年（1954年）には、分



86-2 音楽発表会

86-3

昭和23年  
蓬田小学校  
乙空釜分教  
場母親学級

